

林業の魅力を広く伝えながら、古里の森林を守りたい――

今年3月、農山漁村男女共同参画推進協議会が主催する、「農山漁村女性活躍表彰」若手女性チャレンジ部門において、優良賞を受賞した兵庫さん。若手林業家ならではの発想と行動力で、地元を中心に林業の魅力と森林保全の大切さを発信しています。

【林業を続ける決意】

兵庫さんは、会社を経営する中で、林業が地域にとって必要不可欠な仕事だと、改めて実感しました。

「父が創業した仕事を継ぎ、2018年に社長就任。以前にも増して現場へ赴くようになったことで、林業が

地域にとってなくてはならない仕事だと、再認識しました。

私の地元である伊久美などの中

山間地域では、倒木がよく起きます。それに伴い、家屋などに被害

が出ることもあります。原因はさまざまですが、



枝払いや間伐が不十分なために、伸び放題の木々が絡まり合うことで倒れてしまうなど、管理不足も要因の一つ。地域と森林を守るためにも、この仕事を続けようと改めて決意しました」

長さの丸太を生産すること。そのためには、木を山から運び出す必要がありますが、一般的に急傾斜地などの厳しい現場では、そのまま放置されてしまします。でも、所有者が長年守ってきた、大切な森



(株)兵庫親林開発 代表取締役

ひょうご いずみ
兵庫 泉さん(若松町)

【1本でも多く木材に】

兵庫さんは、搬出が難しい現場にある木でも、なるべく木材にしたいと話します。

「会社では、主に素材生産を行っています。これは、立ち木を切り倒し、用途に合った

林です。少しでも木材にすることで、得られる収益を還元したいという思いから、安易に廃棄の道を選ばず、仲間の経験値と技術力を借りて、できるだけ素材生産に取り組んでいます」

【当たり前を見直す大切さ】

兵庫さんは、地元で開催した伐採見学会で得た経験を生かし、林業を知ってもらうための方法を模索します。

「2年前、伊久美で伐採見学会を開いたときのことで

さまざまな年代の人が参加してくれました。特に印象的だったのは、ある子どもの一言でした。『木を切ること

伐は、森にとって良いことなんだね』。適切な森林管理は、持続的な森林保全につながる

と、誰もが知っているわけではないんですよね。自分の当たり前が、他人の当たり前ではないことを痛感しました。

この経験から、林業の魅力や森林保全の大切さを広く伝えたいと考えるようになり、環境学習指導員という県の資格

を取得。7月には、地元小学校の行事に使ってもらえればと、間伐材で作った木製ト

チを提供しました。今後も、さらなるイベントを企画中

さまざまな形で、山と地域との交流を模索していきます」

兵庫さんはこれからも、林業の魅力と大切さを、古里に

広く伝えていきます。



急傾斜地に開設した作業道で木を切り倒す従業員

Shimadajin File #114

島田
Story 人田